

「甲斐国千年の都 笛吹市」宣言

わが笛吹市は、桃・ぶどうの生産地として全国的に名をはせていますが、歴史的にも豊富な資産をもち、特に古代から中世にかけては甲斐国の政治・文化の中心として大きな役割を演じました。

1600 年前、八代町の丘上に巨大な前方後円墳「岡・銚子塚古墳」が造られ、笛吹市に大きな権力をもつ支配者が君臨したことが分かります。

1400 年前には山梨最古の寺院「寺本古代寺院」が営まれ、半世紀後には一宮町に「甲斐国分寺」・「甲斐国分尼寺」が聖武天皇の命により建設されました。これらの寺院は、大陸からもたらされた仏教を広めると同時に、先進的な文化を伝える重要な役割も果たしました。

平安時代の中頃には武士が現れ、鎌倉時代以後、日本の権力を握ります。もっとも有力な武士・源氏は中世になると甲斐の国との関係を築き、子孫の甲斐武田氏が甲斐国を治めるようになりました。武田氏代々の甲斐国支配の本拠である館やかたが笛吹市内に営まれ、数多くの歴史資料・文化財が残されることとなりました。

私たちは、古代・中世を通じて笛吹市が果たしてきた歴史上の重要な役割を認識し、郷土愛の礎いしずえとして歴史資産を保護し将来に伝えるべく努力することを誓い、ここに「甲斐国千年の都 笛吹市」を宣言します。

2009 年 10 月 12 日

笛吹市長 荻野正直